

44 電子カルテシステムと透析通信システム接続による運用状況とその経験

松本協立病院 ME科¹⁾ 透析センター²⁾

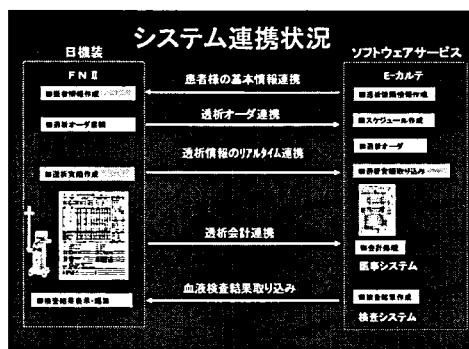
岡村正喜¹⁾橋田浩一¹⁾五味隼巧¹⁾上野和正¹⁾太田陽子¹⁾坂口英誠¹⁾大久保佑樹¹⁾

笹川圭¹⁾柳澤千昭¹⁾小林浩¹⁾ 北原慶祐²⁾由井弘²⁾

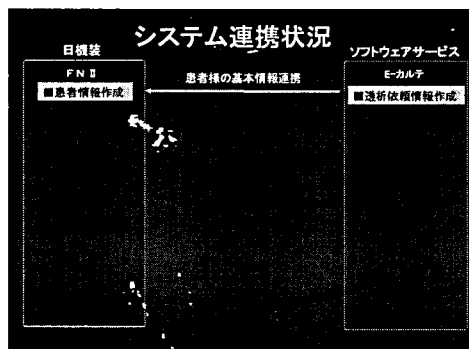
はじめに

当院では、2001年7月に、ソフトウェアサービス社製電子カルテ(以下 E-カルテ)を導入し、2006年5月に透析センター増床リニューアルに伴い、日機装社製透析通信システム(以下 FN II)を導入した。E-カルテと FN II の連携開始から約2年数ヶ月が経過したので、その運用状況について報告する。

システム連携状況

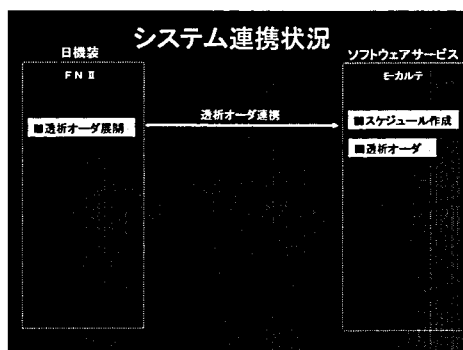


当院の連携状態を報告する。

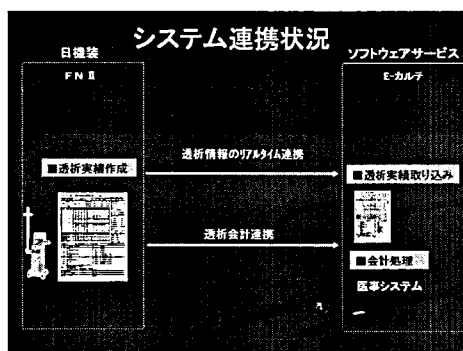


まず、患者の基本情報の連携により、ID・名前等

のデータを E-カルテから FN II へ自動で登録されるようになった。

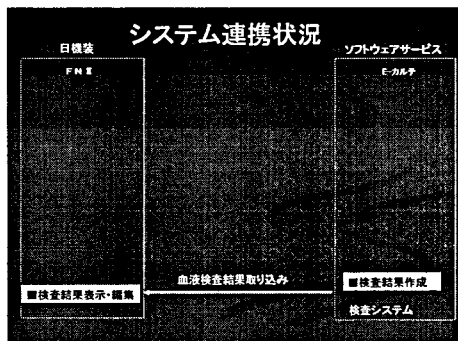


次に透析オーダー連携により、DW や透析時間、血流量などの透析情報をスケジュール作成し、FN II から E-カルテへ取り込んでいる。



透析情報のリアルタイム連携は、透析中の血圧や静脈圧や処置情報をリアルタイムで FN II から E-カルテへ送っている。

透析会計連携は、FN II にて登録した情報がそのまま会計情報として E-カルテへ取り込まれるようになった。



血液検査結果取り込みは、血液検査結果を E-カルテから FN II へ取り込むことができ、患者監視装置上の画面で血液検査の値が閲覧できるようになった。

また、Kt/V の自動計算も可能となり血液検査結果と合わせて閲覧できるようになった。

まとめ

透析通信システムの導入、各種連携により、患者登録に関する間違いがなくなった。

透析センター以外の場所で透析実施状況を閲覧可能となった。

FN II サーバー故障時のバックアップが必要である。

システム導入前には、他職種間との連携、話し合いが重要である。

おわりに

今後も透析通信システムを活用し、更なる安全性の向上と業務の効率化に努めていきたい。